

先日の研究発表会公開授業の様子と、各分科会の研究協議についてのお知らせも、今号で3回目となりました。3学年それぞれの授業の様子をお伝えし、今後の研究につなげていきたいと思っています。今回は、6年1組の授業と事後研の内容についてお知らせします。

単元名 読んでみて！私の提案 中村小発 ~みんな一緒に with コロナプロジェクト~
全9時間

教材名 「世界に目を向けて意見文を書こう」 **公開授業：6年1組 大野 教諭**

身に付けさせたい資質・能力： 事実と意見を区別して書き、自分の考えが伝わるように工夫して書き表す力

目的を持って本時のゴールを目指す

友達のポイントを知り、アドバイスし合う

一人ひとりのこだわりポイントを可視化



ホワイトボードには、提案する文章に使えるような言葉を沢山集めていました。再度、辞書で調べている様子。

授業についてリフレクション：授業者より

目標達成に向けて

子どもそれぞれによってスタートや進み具合が違い、自分でポイント（目標）を決めて、一人ひとりの学習活動に任せていた。スタートの内容もそれぞれちがうため、各自こだわりポイントを黒板に示すことで、一体感を目指した。

本気になる課題

単元を通して、自分なりにチャレンジしていく学習に取り組んできた。

見方・考え方

前半少し時間を使いすぎたため、最後の交流や記述の時間が足りなかった。



分科会では、参観の視点（3点）に沿って協議を行っていただきました。（抜粋）

1. 本時の目標は達成できたか。

- 各自のめあての設定と点数を入れた振り返りで、課題に本気で取り組んでいた。
- 事実と自分の考えを明確にしなが、友だち同士で話し合って活動できていた。
- ▼書く時間設定が短いのではないか。
- ・「説得力がある」と判断する基準をどのようにもって活動していたか。

2. 児童が本気になる課題の工夫があったか。

- コロナという切実で世界的課題を設定したことで、自分事として考えていた。
- こだわりポイントや点数化で、何に着目してどこまで頑張ればよいか視覚的に分かり良かった。
- 目的・相手意識を明確に持って主体的に活動していた。
- ・何をもって点数を付けるのか、その根拠を大切にしたい。

3. 「言葉による見方・考え方」を働かせたための手立てがあったか。

- 文末表現、インパクトのある書き出しなど、言葉にこだわっている児童の姿が見られた。
- 接続語や文末表現など、「この言葉なら使えるかな。」など、教科書や「言葉の宝箱」を参考にし、言葉を吟味する姿があった。（吟味できるだけのたくさんの言葉集めも事前にできていた）
- 本論で使える文末表現と結論に使える文末表現（言い切りの言葉で強く表す）を自ら分けて考えていた。
- ▼全体交流の後、もう一度書く時間を設定。



助言者：宗崎指導主事より（本単元・本時の学びのポイント）

①単元を通して資質・能力の育成を目指す

本単元で育成を目指す資質・能力を明確にしていた。振り返りでも「事実と意見を区別して書く力」を意識した内容を書いていて、資質・能力を確実に身に付けさせている。

②学習過程を意識して学びに向かう子どもたち

- ・「書くこと」の領域では、記述の際に考えの形成も行っている。
- ・記述⇒推敲⇒記述・・・繰り返し、学びの足跡を残していくことが大切。
- ・次時では、更に大人に向けた言葉にグレードアップして、提案する文章を書いていく子どもたちの姿が想像できる。

③対話の姿や言葉を具体的に描く

子どもたちは、相手を説得したい思いを持って、自分だけの言葉を使って書いていた。小さな提案者が育っている。（国語は提案者を育てる大切な教科）「色々な」ではなく、言葉へのこだわりをもって書かせることで語彙を広げ、より説得力のある文章が書けるようになる。授業では、どんな対話が必要か、どんな言葉を使ってほしいかという子どもの実際の姿を常にイメージして、そのための手立てや準備を行うことを大切にしていきたい。

自分たちで話し合い、友達同士アドバイスし合いながら考えを広げ深めている子どもたち。活動を任せている大野先生ですが、全員同じ方向に向かっていきます。「〇〇さんの今の発言どう？」と他の人に問い返し、常に一人ひとりに考え判断させ、述べさせています。また、対話や記述の内容などを瞬時に見取り、言ってほしい・広げていきたい言葉を子どもたちから引き出し、学級全体で共有していました。学習過程を行き来しながら、自分の学習を調整する力も身に付けている子どもたちの姿を感じました。

研究発表会においては、公開授業の先生方、共に単元づくりをしていただいた各ブロックの先生方、そして印刷物や校内環境の整備など、本当にありがとうございました。チームで一つとなって、これまでの研究内容や子どもたちの姿を観ていただくことができました。今後も、友達と関わりながら言葉を選び、自分の思いを表現していく子どもたちの学びを支え、進めていきましょう。